No. 31～No. 35 はミクロ経済学です。
解答は，問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 31】 ある企業の生産関数が

$$Y = K^{\frac{3}{4}} L^{\frac{1}{4}} \qquad (Y：産出量，K：資本量，L：労働量)$$

で表されている。また，資本及び労働の要素価格はそれぞれ 3，16 である。この企業が産出量を 40 に固定したままで費用最小化を図った。この場合の最適資本量はいくらか。

1. 60
2. 65
3. 70
4. 75
5. 80

【No. 32】 完全競争市場において，企業の短期の総費用関数が

$$TC = \frac{1}{3}x^3 - 2x^2 + 10x + 20$$

で示されるとする。ここで，TC は総費用，x は生産量を表す。このとき，操業停止点における生産量はいくらか。

1. 1
2. 3
3. 5
4. 7
5. 9

【No.　33】 完全競争市場において，X 財の需要曲線が $p = 10 - 2x$，供給曲線が $p = 6x$ で与えられている。ここで，p は X 財の価格，x は X 財の数量を表す。

X 財の生産者に対して財 1 単位当たり 4 の従量税が課されたとき，課税後の均衡における消費者と生産者の租税負担割合の組合せとして正しいのはどれか。

	消費者	生産者
1.	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$
2.	$\frac{2}{3}$	$\frac{1}{3}$
3.	$\frac{1}{4}$	$\frac{3}{4}$
4.	$\frac{2}{5}$	$\frac{3}{5}$
5.	$\frac{3}{5}$	$\frac{2}{5}$

【No.　34】 独占企業が二つの異なる市場 1，2 で製品を販売しており，この企業は両市場で異なる価格を設定して販売することができる。それぞれの市場の需要関数は

$$q_1 = 300 - p_1$$

$$q_2 = 120 - 4p_2$$

である。また，総費用関数は $c = x_1^2 + x_2^2$ である。ここで，q_1 は市場 1 の需要量，p_1 は市場 1 の価格，q_2 は市場 2 の需要量，p_2 は市場 2 の価格，c は総費用，x_1 は市場 1 の供給量，x_2 は市場 2 の供給量を表す。この企業が利潤最大化をした結果としての価格の組合せとして正しいのはどれか。

	p_1	p_2
1.	100	18
2.	200	21
3.	200	27
4.	225	18
5.	225	27

【No.　35】 表は，プレイヤー１がＡ又はＢの戦略を，プレイヤー２がⅠ又はⅡの戦略をとった場合の，プレイヤー１及びプレイヤー２の受け取る利得水準を示している。表の(　)内の左側の数字はプレイヤー１の利得，右側の数字はプレイヤー２の利得である。これに関する次の記述のうち，妥当なのはどれか。

ただし，両プレイヤーは協調行動をとらず，互いに相手の戦略を予想しながら，自己の利得が最大となるような戦略を選ぶものとする。

		プレイヤー２	
		戦略Ⅰ	戦略Ⅱ
プレイヤー１	戦略Ａ	$(a,\ b)$	$(-5,\ 8)$
	戦略Ｂ	$(7,\ -6)$	$\left(\frac{a}{2},\ \frac{b}{2}\right)$

1．ａ＝6，ｂ＝6のとき，戦略の組合せ[Ｂ，Ⅱ]はナッシュ均衡であり，かつ，パレート効率的な状態である。

2．ａ＝6，ｂ＝6のとき，戦略の組合せ[Ａ，Ⅰ]及び戦略の組合せ[Ｂ，Ⅱ]はどちらもナッシュ均衡である。

3．ａ＝8，ｂ＝10のとき，戦略の組合せ[Ｂ，Ⅱ]はナッシュ均衡であり，かつ，パレート効率的な状態である。

4．ａ＝8，ｂ＝10のとき，戦略の組合せ[Ａ，Ⅰ]及び戦略の組合せ[Ｂ，Ⅱ]はどちらもナッシュ均衡である。

5．ａ＝－12，ｂ＝10のとき，戦略の組合せ[Ｂ，Ⅱ]はナッシュ均衡であり，かつ，パレート効率的な状態である。

No. 36 ～ No. 40 はマクロ経済学です。
解答は，問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 36】 ある国のマクロ経済が次のように示されている。

$$Y = C + I + G$$
$$C = 40 + 0.8(Y - T)$$
$$I = 80$$
$$T = tY$$

ここで，Y は国民所得，C は民間消費，I は民間投資，G は政府支出，T は租税，t は限界税率を表す。完全雇用国民所得が 800 であるとき，完全雇用と財政収支均衡を同時に達成する限界税率はいくらか。

1. 0.10
2. 0.15
3. 0.20
4. 0.25
5. 0.30

【No. 37】 ある国のマクロ経済が次のように示されている。

$$Y = C + I + G$$
$$C = 10 + 0.6(Y - T)$$
$$I = 120 - i$$
$$G = 40$$
$$T = 20$$
$$M = L$$
$$M = 10$$
$$L = 0.1Y + 10 - i$$

ここで，Y は国民所得，C は民間消費，I は民間投資，G は政府支出，T は租税，i は利子率，M は貨幣供給，L は貨幣需要を表す。この経済において，政府支出が 40 から 50 に増加したとき，クラウディング・アウト効果によって生じる国民所得の減少分の大きさはいくらか。

1. 2
2. 4
3. 5
4. 7
5. 9

【No.　38】 現金通貨を C，預金通貨を D，支払準備金を R とすると，公衆の現金・預金比率が $\frac{C}{D}=0.02$ であり，市中銀行の支払準備率が $\frac{R}{D}=0.01$ であるとき，貨幣乗数はいくらか。

1．30
2．34
3．38
4．42
5．46

【No.　39】 新古典派経済成長モデルが次のように示されている。

$$Y_t = 0.4K_t^{\frac{1}{2}}L_t^{\frac{1}{2}}$$
$$Y_t = C_t + I_t$$
$$C_t = 0.8Y_t$$
$$K_{t+1} = K_t + I_t$$
$$L_{t+1} = 1.02L_t$$

ここで，Y_t は t 期の産出量，K_t は t 期の資本量，L_t は t 期の労働量，C_t は t 期の消費，I_t は t 期の投資を表す。このとき，資本・労働比率 $\frac{K_t}{L_t}$ は時間の経過とともにいくらの値に収束するか。ただし，初期の資本量と労働量は正の値であるとする。

1．12
2．16
3．20
4．24
5．28

【No.　40】 あるマクロ経済は五つの家計で構成されている。五つの家計の所得はそれぞれ0円，100万円，200万円，300万円，400万円である。この経済のジニ係数はいくらか。

1. $\frac{1}{5}$

2. $\frac{2}{5}$

3. $\frac{3}{5}$

4. $\frac{4}{5}$

5. 1